

むしむしたいけんで、最初の一步を



小さなチャレンジを乗り越えて、自信まんまん

簡単なこと、ではありません

これ何だろう？ さわってみたい！ でも、ちょっとこわいかも・・・ 小さな子どもたちは、生きて動いている小動物に強い関心を持ちます。虫とりや魚とりに行けばいい。経験豊富な人は、そう思うでしょう。しかし、普通の人にとっては、それは簡単なことではありません。どこに行けばいいのか、さわって危険はないのか、わからないことだらけです。セミやトンボはどこにでもいますが、すばしっこくて、つかまえるにはそれなりの技術と、時間を要します。

むしむしたいけんで、デビューしよう

「むしむしたいけん」は、はじめて虫に触れる子どもたちや、あまり虫に触れる機会のなかった子どもたちが、たくさんの虫を存分にさわることができる場として、2012年から、ひとはくで開催しています。2015年の夏は連続8日間の開催で、1,800人近くの来場者がありました。

登場する虫の多くは、博物館のまわりの深田公園や県内で確保した、ごく普通の虫たちです。カブトムシやクワガタムシはテーブルの上に、セミやトンボなどのよく飛ぶ虫は、蚊帳の中に。子どもたちは、虫に詳しいお兄さんお姉さんのエスコートのもと、いろんな虫を自由にさわることができます。さわるのが苦手な子どもたちには、標本を見てぬり絵をするコーナーも用意しています。



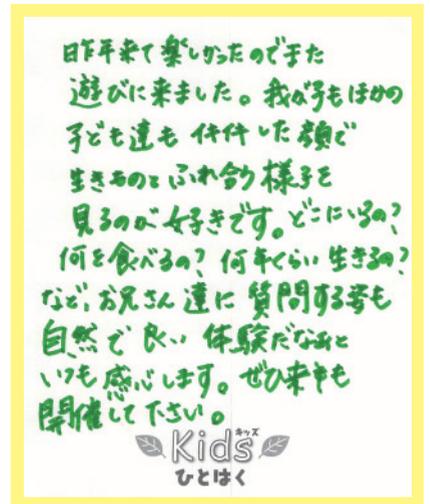
いろんな虫を自由にさわられる「むしむしたいけん」

大人も笑顔に

子どもたちのキラキラした笑顔、自信にあふれた表情に、見ている大人の表情も、ほころびます。会場でいただいた保護者のコメントの一部をご紹介します。

直接虫たちに触れることができ、想像以上に子供たちは興奮し喜んでいました／最初には自分から採れるようになっていてビックリでした／はじめて手でもって自信まんまんの顔してました／あきる事なくずーっとその遊ぶ姿を見ていて、こちらまで楽しくなりました／虫大好きな息子の目がキラキラ輝いていて、親も嬉しくなりました

ひとはくでは「キッズひとはく推進プロジェクト」をはじめ、小さな子どもたちの学びを応援しています。好奇心の扉を開いて、最初の一步を踏み出した子どもたち。これから、博物館を大いに利用してほしいものです。



来場者のコメントの一例

虫の調達や、子どもたちのエスコートの多くの部分は、ひとはく連携活動グループ「テネラル」の高校生や大学生が担っています。また、同「run♪ run♪ plaza」の大人の方々が、会場のようすを見守っています。「むしむしたいけん」は、たくさんのスタッフの協力によって、運営されています。この場を借りて厚くお礼申し上げます。



昆虫を介したコミュニケーションの創出プロジェクト

代表者：八木 剛

協力者：ひとはく連携活動グループ テネラル・同 run♪ run♪ plaza・

NPO 法人こどもとむしの会

財源：受益者負担（参加費 1 人 100 円）